

美浜環境パートナーシップ会議との交流会 議事録

実施日時	平成 20 年 7 月 14 日 (月) 13:00 ~ 15:00
場 所	福井市役所別館 3 階 13A 会議室
出席者 (敬称略)	FEPS 関係者 (計 19 名) (副会長) 中野 佐知子 (委員) 井上 博行、井上 義一、清水 武正、高山 泰孝、田近 美恵子、堤端 充、野村 昭一、藤田 由美子、皆川 陽一郎 (プロジェクトメンバー) 森川 喜成、渡辺 道子、由田 昭治 (事務局) 坪川 照夫、宮越 靖彦、辻 常綱、岸上 尚絵 井上 智恵、岩出 真由
	美浜環境パートナーシップ会議関係者 (計 13 名) (美浜環境審議会委員) 服部 勇 (委員長) 松井 明彦 (副委員長) 石丸 清美 (委員) 山崎 俊太郎、武田 利満、政岡 弘子、中村 正一、森川 良子、仲寫 富士男、馬野 弥裕、浅妻 ひとみ (事務局) 田辺 正、川尻 宏和
議 題	■ 各会議の活動報告 1 福井市環境パートナーシップ会議の活動概要 2 福井市環境パートナーシップ会議 プロジェクト活動 ○環境教育ネットワークプロジェクト ○環境 I S O プロジェクト 3 美浜環境パートナーシップ会議の活動について ■ 意見交換会
進行及び 要 旨	■ 各会議の活動報告 1 福井市環境パートナーシップ会議の活動概要 (宮越 発表) 2 福井市環境パートナーシップ会議 プロジェクト活動 ○環境教育ネットワークプロジェクト (田近 発表) ○環境 I S O プロジェクト (高山 発表) 3 美浜環境パートナーシップ会議の活動について 平成 19 年度から活動開始 委員は 16 人 町民と事業者が参加・協働し、庁内推進会議(行政)、こども環境リーダーと連携 2 ヶ月に一回会議開催 住民活動の検討、実践

■ 意見交換会

→活動の場所、集まる人数は？

⇒企画毎に異なるが、概ね10～40人。対象は、家族向けや大人向けなど様々である。

→セミナーの広報方法は？

⇒市政広報やケーブルテレビ、マスコミへの情報提供。また、チラシを図書館などの公共施設に設置したり、過去の参加者に送付したりしている。ただし、チラシの送付は、経費が掛かるので出来るだけメールでの案内を拡大していきたい。

<環境意識の啓発について>

→（市民に）環境について知ってもらうには、どのようにしたらよいと考えているのか。

⇒身近なところでの恐怖（危機）を知らせ、環境保全の重要性に気付かせ、自覚を促す。

→環境活動の動機付けはどうするのか。

⇒意識（危機感）を少しずつ定着させていくしか方法がない。

美浜は人口が少ないので活動が浸透しやすいのでは？

→（現状では）あまり参加者がいない。

⇒（美浜町の）環境基本計画はどのような主体で作成したのか？

→美浜環境パートナーシップ会議と町内代表、役場全課の課長補佐で作成。

行政中心になると一時的な活動で終わってしまうので、住民の参画が重要と考える。

⇒三方五湖は良い勉強の場になるのではないか。

教育委員会と協力して学校で総合学習として環境教育をしてはどうか。

→学習の目標をはっきりさせないと学校側が拒否する。

例えば、既に実践しているエネルギー教育では、手回し発電などの数値化できる体験学習を取入れ上手くいっている。

⇒ラムサール条約で環境への関心が高まっているのでは？

→若狭町の方が三方五湖に関心がある。

→ラムサール条約で行政が動き始めた。

条約の内容を理解していないので観光事業への期待が高まった。

<市内での環境活動について>

→福井市の飲食店側のMy箸運動の取り組みは？

⇒市内で参加している店は、（知る限りでは）4軒くらい。

地元の森田地区では、イベントで使用した箸はリサイクルしている。

⇒美浜町では、レジ袋削減やMyバッグ運動の浸透具合はどうなっているか。

→ある店ではMyバッグ運動を推進している。

エコバッグが無料で配られており、大量にありすぎて逆に使用していない。

→レジ袋の有料化が有効ではないか。

→（美浜町では）スーパーやコンビニを対象にMyバッグに関するアンケートを行う予定。

<組織の構成について>

⇒（美浜の）組織に地域の代表がいないが活動内容の伝達はどうなっているのか。

→美浜環境パートナーシップで決まった内容を各集落の代表者に伝えてもらう。

→（福井市では）エコ活動リーダー養成講座を行っているが、リーダーとして活動する場所の提供、また実際に活動している人はいるのか。

⇒いずれもない。現状では、FEPSのメンバーとして参加するしかない。現在、活動場所を考えている。

（FEPSの活動に参画する人に）もっと広がりがあるが、現状では関心がある人は講座に（聴講生として）参加するだけ。